

令和3年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立 筑豊高等 学校

自己評価 学校運営計画(4月)
学校運営方針
(1)あきらめず最後までやり通す、学ぶ意欲の高い生徒を育成する。(知)
(2)礼儀を重んじ、相手を思いやる豊かな心をもった生徒を育成する。(徳)
(3)困難なことにも忍耐強く挑戦する体力とくじけな心をもった生徒を育成する。(体)
(4)地域社会を支え、地域社会に貢献できる生徒を育成する。(地域創生)
昨年度の成果と課題
年度重点目標
具体的目標
(1)計画的なキャリア教育による希望進路実現と社会に主体的に参画する態度と能力の育成
(2)アダプティブラーニングとアクティブラーニングによる個別最適な学びと協働的な学びの推進
(3)これまでの実践とICTとを組み合わせた新しいカリキュラムの創造
(4)鍛えて、ほめて、生徒の可能性を伸ばす教育活動の実践を通じた校訓の具現化
(5)組織的・計画的に教育活動の質の向上を図るカリキュラムマネジメント
(6)PTA・同窓会・地域・産業界・大学との連携・協働による学校活性化
(7)情報共有による生徒理解の推進と積極的な学修支援
(8)安心・安全に学べる学校環境の整備
(9)中学校訪問やホームページ活用によるきめ細やかかつ積極的な広報活動の充実
(10)教職員の働き方改革の推進を通じた生徒の指導の充実

評価(総合) B

学校関係者評価
自己評価は
A: 適切である
B: 概ね適切である
C: やや適切である
D: 不適切である
B

評価項目 具体的目標 具体的方策 評価(3月) 次年度の主な課題
学事
基本的な生活習慣定着のため「欠席・遅刻・早退者」の減少
帳簿記入を徹底し、出席状況を確実に管理、把握し、課題の検証と改善を意識する。
体調不良や個々の事情を伴わない遅刻者について1日1%以内を目指す。
本校独自のグリーンカード(授業欠席時数把握カード)を活用し、転学者退学者の抑制を図る。
アクティブ・ラーニングの推進と観点別評価の確立
教科横断的視点(カリキュラムマネジメント)を元に観点別評価を整え新学習指導要領への円滑な移行の準備をする。
新学習指導要領の教育課程を研究し、主体的・対話的で深い学びを実現するための個に応じた授業のあり方を模索する。
生徒授業アンケートを活用し、各学科、教科においてアクティブラーニング、アダプティブラーニングの実践研究を検証し、授業改善を図る。
基礎学力の定着に向けた授業規律の確立と成績不振者数の抑制
チャイム席カードの活用と授業中の生徒の実態を共有することできめ細やかで丁寧な指導を行う。
生徒指導課と連携し安心・安全で落ち着いて学習に臨める学習環境を整える。
職員研修・研究授業の充実
ICT機器に関する研修会、授業担当者会議等を定期的に計画し、情報の共有を図る。
授業訪問シートを活用し、研究授業参観後の意見交換を行うことで個に応じた授業改善につなげる。
読書活動の推進・芸術鑑賞の充実
読書活動の意義を理解、普及させるとともに、図書年間貸出上位者については表彰をする。
図書館だよりを発行し図書館利用を推進することで、読書活動への関心を高める。
古典芸能をテーマとした芸術鑑賞を実施し、生涯学習の一助とする。
授業におけるICT機器の活用と学校ポータルサイトによる業務効率の推進
電子黒板・タブレット等のICT機器や学校ポータルサイトの利用状況を把握し、適切な管理に努める。
Wi-Fi環境を利用した授業や学校行事でのICT機器の活用実践例を紹介し、より活用しやすい環境を提供する。

項目ごとの評価 学校関係者評価委員会からの意見
・コロナ禍のため、リモート等が増加している。Wi-Fiの充実を望む。
・ICTを活用した授業を展開するなど生徒自身が関心をもてる努力をしていると思う。
・転学者や退学者の抑制のため、具体的な理由を分析して、今後の指導、支援に生かしてほしい。
・コロナの影響を受けつつも、昨年より各行事の開催ができたことが良かった。対策を徹底して教育活動を継続していると思う。

生徒育成	情報共有及び各部等との連携による生徒指導力の向上	規範意識(校則を守る、時間を守る等)の確立による問題行動の未然防止のために、関係分掌との連携を図る。	B	A	【生徒指導課】 ・規範意識の確立に向け、教職員の一貫した指導を展開していく。また多様化する問題行動の事案に対して、理解を深め、きめ細かい指導を図る。 ・新型コロナウイルス感染症により、行事の中止が相次ぎ、従来の生徒指導課主催行事を経験した生徒が存在しなくなったため、新たな学校行事等も含め計画・実行し、学校を活性化させていく。 ・生徒会執行役員をリーダーとして育てるための研修等を実施し、各種委員会活動の幅を広げていく。それにより生徒主導の行事を展開していく。 【保健厚生課】 ・生徒の健康状態や日常生活等で気になる点が見られた際には、学年会議や職員会議等で教職員へ周知徹底を図り、生徒への注意喚起・早期発見を行う。 ・美化委員会・保健委員会の活動計画の確認と定期的な委員会の開催により、時季に応じた取り組みができるようにする。(熱中症・新型コロナウイルス感染症・インフルエンザなど) ・今年度の職員研修(救急処置法)は実践的で効果的なものであった。来年度は倒れた生徒だけでなく、それに伴う二次災害についても考える研修を行う。
		校則違反者等に対する指導において、その反省はもとより再発防止の視点に立ったきめ細かい指導を図る。	A		
		様々な事案に対して、迅速・正確・丁寧な指導を行うことで統一化を図り、すべての生徒に対して平等な指導を行える環境を整える。	A		
	学校行事の活性化	新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図り生徒達が何事にも挑戦し、より一層帰属意識を高めるために生徒一人一人が活躍できる環境を整える。	B	B	
		生徒会(執行委員会、専門委員会、特別委員会)が中心となって生徒主導で行事を行う。	A		
		放送委員会等を活用して、あらゆる学校行事に対して啓発活動を行い、その充実を図る。	B		
	生徒会活動の充実	生徒会活動や部活動の活動、結果報告等の広報活動を充実させることで、部活動の加入率60%台を維持できるようにする。	A	A	
		本校ならではの広報活動(筑豊高校公式キャラクター等)を展開して、筑豊高校の魅力を伝える取り組みを創意工夫して行う。	A		
		生徒会執行委員の会議や研修を行い、学校を牽引するリーダーとしての自覚を与える指導を行う。	B		
	心身に健康な生徒の育成を図るとともに、事前予防と事後措置の徹底	保健室来室状況を管理職や学事部長、学年主任に提示し生徒の心身の健康課題を分析・把握する。	A	A	
		健康診断の意義を全生徒に周知させ、健康診断受診率・医療機関受診率を100%にする。	B		
		校内外との連携を図り、チームとして効果的に対応する。	A		
学校感染症の拡大防止や感染対策を徹底する。		A			
清掃活動に対する意識の向上と環境美化の徹底	毎日の清掃活動への取り組みを向上させる。	B	A		
	校内美化に対する意識の向上を図る。	A			
	必要な清掃用具を揃え、快適に清掃できるようにする。	A			
食堂との連携を図り、食育の向上とともに健康増進の強化	「食堂のメニュー表」を全クラスに掲示し、食事への興味関心を持たせ、健康でいることの重要性を図る。	A	A		
	保健便り等を用いて、調理師の紹介や食育に関する内容について情報提供する。	B			
保健・美化委員会活動の活性化の推進	健康診断補助などの保健活動やクラスマッチでの救護活動、文化祭での展示発表を通して、保健委員会活動の活性化を図る。	A	A		
	キャンパスクリーンアップや清掃活動を通して、美化委員会活動の活性化を図る。	A			
キャリア教育	キャリア教育の推進(社会的・職業的自立に向け基盤となる能力や態度の育成)	日常的マナー(身だしなみ・挨拶・言葉遣い等)や学校生活(出欠・成績・部活動等)に対する意識の向上を図る。(性格を磨き人間的魅力を高める)	B	B	【就職課】 ・1、2年次から、面接指導、企業説明会、工場見学等の機会を作り、早くから進路意識を高める。 ・難関企業の内定に向けて、基礎学力の定着を図る。 ・進路実現には、頑張っている生徒のみの努力では、選択肢は広がらない。そのため、基礎学力の向上、資格取得等において全体の底上げを図り、本校に対する企業側の評価を上げることで、左記の目標の達成につなげる。 【進学課】 ・推薦入試での合格率を上げるために、国・数・英の指導以上に小論文指導の強化を図る。 ・正しい学校選びのため、外部講師を有効活用する等、正確な情報と、多くの選択肢を生徒に提供する。 ・日本学生支援機構奨学金説明を保護者にも丁寧に説明し、進学希望の生徒の進学支援体制を確立する。 【全体】 ・卒業後、社会の厳しさに耐え得る人材を育成するために、「叱って躡ける」指導もケースに応じて必要となるため、他の分掌と連携するとともに、社会で特に必要とされるコミュニケーション力の向上を図る。
		専門高校としての武器となる資格取得を目標に積極的に検定課外の受講を促す。(卒業後のスキルアップ・生涯学習への意識付け)	B		
		学年と連携し、インターンシップを実施する。(職業観・人生観の醸成) オープンキャンパスに参加する。(学問観・人生観の醸成、ミスマッチを防ぐ)	C		
	進路指導の充実(進路意識の向上、学習意欲の喚起)	進路学習を実施する。(学年固定の体系的学習・講話・ガイダンス、面接指導、適性検査、就職関係模試、小論文学習等)	B	B	
		教科と連携し、希望生徒への検定課外を実施する。(知識・技術の習得)	A		
		進学支援体制の充実を図る。(日本学生支援機構奨学金等経済的選択肢)	B		
	企業・職業安定所との継続的な連携	CSN(Chikuh Shinro News)を発行する。(委員会活動の活性化と進路情報の提供)	A	A	
		企業訪問を実施する。(卒業生の近況把握・求人動向・企業情報の収集)	A		
		社内見学や合同企業説明会等に積極的に参加する。(求人開拓、本校のPR)	B		
		職業安定所と情報を共有し、就職支援を強化する。	A		
企画広報	教育活動を円滑に行うために計画的な企画・運営	計画的な教育活動を実施するため、行事予定の早期の取りまとめを行う。	B	B	・Instagramやyoutubeでの情報発信等、本年度新しくチャレンジしたため、その運用も含めてさらに充実させ、各学科の取り組みや部活動等、特色ある教育活動を積極的に発信する。 ・体験入学への中学生、保護者の参加者を増やすために、中学校訪問を戦略的に実施して、志願者数の増加につなげる。 ・本校のホームページのアクセス数が、昨年対比約4,000件増加しており、次年度も引き続き、ホームページを頻繁に更新して、リアルタイムに情報を発信する。
		各種行事の来校者を増加させるため、HPや一斉メール配信システムを活用して学校行事の案内を可能な限り早めに行う。	A		
		地域創生の取り組みを強化するため、PTA・同窓会・保護者・学校周辺の地域の方々との連携・協働・融合を図る。	B		
	積極的な学校広報活動	学校広報物については本校の生徒の生き生きとした写真を多く使うなど、内容の充実に努める。	A	A	
		一斉送信メールの加入者を70%以上まで増やし、必要な情報を速やかに配信する。	A		
		プレスリリースの発信などマスコミへの取材の働きかけを強化する。	A		
	中学生及び保護者・中学校教員に向けた広報活動の充実	本校の特色ある教育活動について中学校、地域へ随時発信して、本校の教育活動の理解を得て志願者数の安定確保を図る。	A	A	
		特色ある教育活動や授業について学科と連携し、学科の情報について写真や動画を多く活用した学校広報物を作成する。	A		
		進路情報などの情報をより詳しく発信するため、これまで以上に各分掌との連携を図る。	B		
	SNS・ホームページを活用した広報活動	HPだけではなく、InstagramやyoutubeなどのSNSを活用し新しい広報活動にチャレンジする。	A	A	
他校のHPや広報などについて研究し、本校の広報活動を強化する。		A			
3日に1度程度の更新を行い、ページへのアクセス数を増やす。		B			

<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会主導のもと全校生徒のSDGsへの積極的な取組や商業科の販売実習や生活デザイン科のファッションショー、また部活動における全国大会での活躍等、コロナ禍の制限がある中、積極的に活動ができたことが評価できる。生徒が活躍する場面が多くあり、地域の活性化につながっている。 ・生徒育成部でのA評価は、たのもしく思う。 ・生徒指導上対応していかなければならない案件に対して、なぜその問題に至るようになったのか、その背景についても、継続して取り組んでほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・この厳しい状況の中で、就職、進学ともに100%達成は、教育活動が充実している証だと思う。ここに行き着くまでには、生徒の努力はもちろんであるが、先生方の連携した進路対策等の結果である。次年度以降も第一希望進路実現に向けて、生徒への支援を期待する。 ・オープンキャンパスや企業説明会への参加が制限されたことは、残念であるが、リモートでの参加等最大限に対応できたことを評価する。次年度以降も生徒の進路先の開拓や実現に向けてきめ細かに対応してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・InstagramやYoutube等情報発信を積極的に行い広報活動を充実させていることを評価する。この情報発信を志願倍率の向上につなげてほしい。 ・HPの更新等、最新情報の発信を大切にほしい。 ・個別の体験入学への対応は高く評価できる。この取り組みが志願倍率の向上につながると思う。 ・いかに体験入学に中学生と保護者を誘導できるかが大切となってくるため、情報収集を行い対応してほしい。

総合 ビジネス科 ビジネス 情報科	専門科目の基礎・基本の定着とスキルアップ	生徒個人の理解度に応じた柔軟な学習形態を展開する。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の改訂にともない、商業科として3年間を見据え、特に起業家教育については早急に授業内容、外部講師、評価規準等、誰が担当しても対応できるように教科指導研修を行う。 ・効果的なICT活用に関する情報共有、ICT機器を使っでの授業展開、それに対応できる教材の準備等科目担当者間で連携を図り、効率化を図る。 ・起業家教育を系統的に授業に位置付け、効果的に実施するために、社会人招聘事業等の講師を選定する。 ・商業科の行事、地域へのPR、新しい商業科の魅力発信等、商業教育の取組を充実させるために内容の見直しを図る。 ・検定試験上位者のレベルアップを図ると共に、限られた学習時間での検定試験等合格を目指すための方策を考える。 ・直方市との連携をさらに深めるとともに、市内の関係事業所等と連携を図っていくことで、地域から愛され、信頼される筑豊高校作りをしていく。
		タブレット、電子黒板などICT機器を活用した情報収集とそれにもなう教材研究、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を取りながら、アクティブラーニング導入によるわかる授業を目指す。	B			
		科目担当教員の科目間連携を図り、効果ある指導の充実を図る。	B			
	専門学科の特色ある取り組みについて地域、中学校等への積極的な情報発信	商業科の特色、学習内容など学科紹介をホームページで行い、定期的に内容をアップする。	C	A		
		中学校向けに学習内容、学科の特徴、学科紹介などの資料を作成し、中学校への情報提供を行う。	A			
		直方市、地域、地元企業、大学等と連携し、地域創生(地域活性化)に協力をする。	A			
	生徒一人ひとりが力を発揮し夢の実現に向けて、資格取得、ビジネスマナーの習得、自ら考えて行動できる生徒の育成	検定試験前を「検定試験週間」と名付け、検定前朝課外計画、放課後学習会計画を設け、一人でも多くの生徒が一つでも多くの資格取得を目指す。	A	B		
		学年と連携し、商業科生徒が率先して挨拶のできる生徒を育てる。	B			
		関係機関・部署と連携し実習を多く取り入れることで、卒業後地元で活躍する生徒の育成、起業家を目指す生徒の育成、地域から信用信頼される生徒の育成を目指す。	B			
	生活 デザイン科	基礎・基本を重視した教科指導	科目の指導目標・内容を明確にし、科目間や教科連携を取り入れた指導の充実を図るとともに、実習科目の観点別評価規準を作成する。	B		
家庭科技術検定等、各種検定への取り組みに当たり、専門科目の指導計画と学科活動を連動させながら、知識・技術の定着を図る。			A			
新学習指導要領に対応したカリキュラム、指導内容、観点別評価基準を検討する。			B			
専門学科としての特色ある教育活動の強化・深化		社会人招聘事業を効果的に活用するためにも、年間指導計画において時期や目的を明確にする。	A	A		
		校外研修を学年別専門科目の教育目標やキャリア教育と関連づけ充実させるとともに、地域イベントへ参加する生徒が主体的な活動となるように支援する。	A			
		文化祭では各グループ(被服・保育・食物)活動を充実させるとともにリーダーの育成を図る。	B			
地域(幼・小・中学校含)への広報活動の充実		学校訪問・出前授業・学校説明会等に、積極的に参加するとともに、学科紹介プリントなども作成する。	A	B		
		ホームページを充実させて、特色ある教育活動等、学科の活動に関する情報を積極的に発信する。	B			
		オリジナル商品開発や各種地域イベントに参加し、企業との協働活動をさらに発展させる。	B			
第1学年		体験的な学習等による帰属意識及び学校生活への順応	挨拶や言葉使いを中心に礼儀の大切さを感じさせ、歴史ある筑豊高校の生徒である自覚と誇りをもたせる。	B	B	B
	集団生活における校則の意義や意図を理解させ、敬意や感謝の気持ちをもつ姿勢を育む。		B			
	学校行事や地域の校外活動とおして、協調性やリーダー性、主体性を育む。		A			
	授業規律の確立と、進路目標の設定	チャイム席ゼロを目指し、休み時間の準備と学習環境整備への意識を養う。	A	B		
		手帳を活用して学習計画を立てさせ、1日2回は手帳を開かせる。	B			
		学期に1度個人面談を実施し進路について様々な選択肢や情報を提供する。	B			
	挨拶の役割理解と、人間関係構築力の育成	体験的な宿泊学習を挨拶や時間感覚等の基本的生活習慣定着の契機とし、自己表現力と継続力の定着を図る。	B	B		
		新しい人間関係の構築において、主体的に居場所を模索し、いつでも援助希求できる体制を整える。	A			
生徒の状況について最新情報の共有と対応の一元化を図るとともに、学校、家庭、関係機関(病院、施設)との連携を図り安心安全に生活できるように丁寧に対応する。		B				
第2学年	自主性と自己管理能力の伸長	失敗を恐れず粘り強く取り組む姿勢を育成するために、多くの生徒に活動の機会を与える。	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年掲示板を効果的に活用するために、提供する情報を精選し、各HRでの伝達と掲示板を活用した伝達を区別する。そのために教員の連携を図る。 ・手帳の活用は、教員主導での活用はできているものの、生徒個人での活用には個人差がある。手帳を活用することの必要性も含めて継続的に指導を行う。 ・過ごしやすい学校生活のために、生徒が積極的に挨拶できる環境を整える。教員から積極的に働きかけていく。 ・学年として取り組んでいる「できたこと」の記入について、生徒自身の振り返りができていないため、面接指導時の自己分析で活用する。 ・希望進路実現のため、就職試験、入試対策を生徒自身に計画させ、2年次の間に面接指導を開始し、生徒への意識付けを行う。
		情報・行動を整理し、物事を計画的に取り組む姿勢を育成するために、学年掲示板や手帳を活用させる。	B			
		5分学習を活用し、1日の学びの振り返り、自学への意欲向上を図る。	A			
	自己有用感を育む集団形成	集団の中での自己の役割を果たすことで、フォロワーシップの育成を図る。	B	B		
		過ごしやすい学校生活環境を形成させるために、場に応じた言葉遣いと心地よい挨拶を徹底する。	B			
		周囲への配慮を怠らず、礼儀作法や規範意識に基づいて他者と関わろうとする態度を育成する。	A			
	キャリア教育の充実と希望進路の決定	自分の進路について多角的に検討し、自己の進路意識の向上を図るため、計画的なキャリア教育の実施と進路情報を提供する。	B	B		
		社会情勢に対して、自らの考えを表現する力を育成するために、学年統一体系的進路学習を実施する。	A			

<ul style="list-style-type: none"> ・商店街での販売実習やイベントにおける直方市の観光ガイド等積極的に地域と連携していることは評価できる。さらに地域と密接に関わり、地域に必要とされる学校づくりを継続してほしい。 ・資格取得、ビジネスマナーの習得等、少しでも上を目指して指導していることは評価できる。 ・コロナ禍でありながら、筑豊フェスティバル(文化祭)において、販売実習を工夫して実施し大盛況であったことは評価できる。次年度も是非実施してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・校外外でのファッションショーの開催や地元の店舗での定期的な販売実習、直方市と連携している子育てサロン等、コロナ禍においても、規模を縮小したり、内容を一部変更したりして対応し、開催できたことが評価できる。 ・調理、被服、保育の3分野の3分年間の系統立てた取り組みが、資格取得へつながり、またその学習内容を生かして進路実現につながっていることは高く評価できる。 ・次年度も継続して地域と連携した取り組みを充実させ、地域を活性化してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活における校則の意義、挨拶や返事等の重要性、基本的生活習慣の定着を目指してほしい。 ・中学生と同じ気持ちでいる生徒が見受けられる。周りの事を考えられるように指導を徹底してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・3年生からの意志をしっかりと受け継ぎ、筑豊高校をより盛り上げてほしい。 ・人間関係で悩む生徒も増えてきているため、学校生活が過ごしやすくなるように、引き続き生徒の状況を注視して環境を整えてほしい。

第3学年	習得した知識・技術や実学の精神を社会で生かす能力の育成(人材の育成)	卒業後地域社会を担う人材を輩出するため、挨拶・言葉遣い・マナーはコミュニケーションの要であることを繰り返し伝えて理解させる。挨拶定着率100%を目指す。(挨拶の励行・マナーの向上)	B	B	<p>・手帳の活用(スケジュール管理・自己コントロール)は毎日手帳を利用する場面をつくる。(必要不可欠なものにする)</p> <p>・コミュニケーション能力の向上は、組織への貢献(社会人としての心構え)に繋がることを意識させた声掛けを行う。</p> <p>・基礎学力定着は進路実現には欠かせないものであるため、キャリア教育部と連携して1年時から取り組む。</p> <p>・教員が全て準備するのではなく、自ら必要なものを考え準備し、学ぶ力を付けさせると共に、自己評価を正しくできる場面をつくる。</p> <p>・様々な場面で生徒の自主性を育てるとともに、リーダー育成を行う。</p> <p>・進学は入試の形態や日程に幅があり、対応が複雑になっており、キャリア教育部と連携して情報の共有を図る。</p> <p>・ゼロトレランス「叱って躰ける」(毅然とした対応、だめなことはダメ)ことも生徒を成長させる大事な指導方法であるため、統一した指導体制を確立させる。</p> <p>・これからも周囲への感謝、自分の居場所を大切に、そこを起点に機会やタイミングで成長できることを伝え続ける。</p>
		具体的な目的を持って授業に臨ませ、意欲的に取り組むように日頃から指導する。予習や復習の他に、自分に必要な資格や知識・技術を積極的に学習する習慣を付けさせるとともに、担任・副担任に限らずアドバイスや声掛けをする。特に書類や宿題の提出率(期限を守り)100%を目指す。(自学習習慣の確立)	B		
		手帳を利用し、常に授業や提出物等の確認を行い、目標に向けて計画立てて行動できるように習慣を付けさせる。それにより、自分のスケジュール管理や気持ちの整理する力、自己をコントロールする能力の育成を図る。(自己管理の確立)	B		
	筑豊高校生としての誇りと豊かな心の涵養	商業および家庭の知識・技術力を高め、専門高校生としての誇りをもたせる。	A	B	
		111期生として、創立113年の歴史や「実学の筑豊」の伝統を継承し、さらに飛躍するために、一人ひとりが日々の活動や行事を丁寧に取り組むことを意識させる。また、その行動が無意識にできるようになることを目指す。	B		
		人に対する気遣いや、環境・設備を大切にすることを喚起する。	B		
	希望進路の実現と社会性の醸成	早期に進路を明確にさせ、必要に応じて面談や情報提供を行うなどの指導により、希望進路実現率100%を目指す。(キャリア教育部と連携)	A	A	
		希望進路実現の基盤づくりの一つとして、進路先に応じた指導や必要な資格取得に向けた指導体制を整える。	A		
		社会で長く愛され必要とされる人材となるために、HR活動や生徒の「未来を考えるプロジェクト」等の時間を利用して、全員に様々な役割や課題を課すことで、色々な人の立場や考え方を柔軟に物事を受け入れられる心を育てる。	A		
人権教育	生徒が安心・安全で居場所のある学校の確立	生徒情報の集約と、職員間の情報共有や研修等を行い、いじめや差別を未然に防止する。	A	A	<p>・人権HRの年間計画の抜本的な見直しを行い、本校の現状に則した内容を取り入れる。具体的には、1学年は多様性を中心に計画し、2学年は部落の歴史のみではなく、外部講師を招いて落差差別の実情を学ぶ機会とし、3学年は就職・進学等の進路を中心とした人権に関わる内容を中心に、本校で学んできた3年間の人権教育の集大成を行う。</p> <p>・人権研修を教員だけでなく、生徒に対しても実施できるように計画し、人権感覚を磨けるようにする。</p> <p>・教師自身が様々な講演や学習会に積極的に参加し、人権感覚を磨くことによって、生徒への適切な支援を行えるようにする。</p> <p>・定期的に生徒の情報を収集し、情報共有を職員間で行うことにより、いじめや差別等の未然防止を図る。</p>
		生徒の人権感覚構築とともに、教師自身が人権感覚を意識し、発言・態度に十分留意し、その見直しを行う。	B		
		毎月のアンケート等を活用し、生徒と十分に面談し、人間関係や安心感の構築を行う。	A		
	就学・修学保障、進路保障の確立	経済的に就・修学が困難な家庭に対して、様々な制度活用を勧め、手続きのサポートを行い、希望進路実現の一助とする。	A	A	
		理由のはっきりしない欠席者に関しては、教員同士で十分に連携・情報交換を行うとともに、積極的に家庭訪問を行い問題解決に努める。	B		
		それぞれの生徒の状況を考慮した上で、転・退学者数を最小限に抑える。	A		

<p>・コロナ禍で入学当初から活動が制限され、一番つらい学年でありながら1、2年生の模範になったと思う。</p> <p>・希望進路実現100%達成は評価できる。1、2年時の進路に向けての基盤づくりが充実したのだと思う。</p> <p>・3年生のリーダーシップ力を、後輩に受け継げる取り組みをしてほしい。</p>
<p>・転学者、退学者の話をよく聴き、入学してきた生徒全員が卒業していく高校を目指してほしい。</p> <p>・人権教育は大切な教育の一つと思う。問題を抱えている生徒に寄り添う指導を継続し、人権教育を充実させてほしい。</p>

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<p>・コロナ禍において、生徒の活動場面が制限される中、自尊感情を高められるように、各活動内容を見直し焦点化して効果的に教育活動を実施する。(新しい学校行事も含めて)</p> <p>・地域社会への貢献(地域創生)を軸にした「起業家教育」「消費者教育」の視点に立ったカリキュラム・マネジメントを推進する。(教科等横断的な視点、教育課程のPDCA、人的確保)</p> <p>・商業科、生活デザイン科の両科の特色ある学習内容を活かした進路を実現すると共に、第1志望進路を実現するための基礎学力(特に国語、数学、英語)の定着に取り組む。</p> <p>・本校への志願者数を増加させるために、中学生・保護者・中学校の教職員に対して戦略的な広報活動を展開する。</p>
--

評価項目以外のものに関する意見
<p>・全ての生徒が筑豊高校で良かったと思える学校づくりを目指してほしい。</p>